

令和7年1月31日
北九州市都市ブランド創造局

報道機関各位

芥川賞作家を3人輩出！ 新人作家の登竜門

～『第11回 林芙美子文学賞』受賞者決定!!～

「表彰式・記念トーク」を開催します

新たな文学の才能が世に羽ばたくことを期待して実施している「林芙美子文学賞」。今年度も、全国から530編の応募があり、このたび、受賞者が決定しました。

これに合わせて、「表彰式・記念トーク」を開催します。今回の記念トークは、当文学賞大賞受賞者で、令和6年に第171回芥川賞を受賞しました朝比奈秋さんです。取材・広報等よろしくお願いいたします。

記

- 1 受賞者・受賞作品 大賞 津田 美幸 (作品名：アナグマ)
佳作 チヒロ・オオダテ (作品名：燃ゆる海)
- 2 受賞者プロフィール 別紙1のとおり
- 3 受賞作品のあらすじ 別紙1のとおり
- 4 表彰式・記念トーク
 - (1) 日時 令和7年2月22日(土) 14:00～16:00
 - (2) 会場 男女共同参画センタームーブ「ホール」(小倉北区大手町)
 - (3) 内容 主催者挨拶、表彰、受賞者挨拶、最終選考委員による講評
(井上荒野氏、角田光代氏、川上未映子氏)
芥川賞作家・朝比奈秋氏による記念トーク
(詳細は別添「チラシ」をご覧ください)
 - (4) 参加申込 事前申込みが必要(定員500人)。
2月21日までに、下記問合せ先までお申し込みください。
※報道機関の方は申込み不要です。

【林芙美子文学賞とは】

北九州ゆかりの作家・林芙美子にちなみ、本市の文学的土壌を全国に発信するとともに、新たな文学の才能を発掘することを目的に、平成26年に創設した文学賞です。

受賞者のその後の活躍も目覚ましく、第2回大賞受賞者の高山羽根子さんは第163回芥川賞を受賞、第7回大賞受賞者の朝比奈秋さんは第171回芥川賞を受賞、第10回佳作受賞者の鈴木結生さんは第172回芥川賞を受賞されました。

【問合せ先】

北九州市立文学館 (担当) 山本、小野
Tel 093-571-1505 Fax 093-571-1525

令和6年度 第11回林芙美子文学賞受賞作品・受賞者プロフィール

賞	大 賞	
ふりがな 作品名	アナグマ	
ふりがな ペンネーム	つだ びこう 津田 美幸	
ふりがな 本名	つだ みゆき 津田 美幸	
年齢	61歳 (令和7年1月31日現在)	
住所	神奈川県	
受賞のコメント	生の内の死の刻印、死から湧き上がる息吹、そうしたものを言葉の力で形にして世界の欠片として陽の光に翳 ^{かざ} す。影を捉える。私が目指している小説の有り様です。	
取材連絡先	取材ご希望の方は、文学館 (TEL 093-571-1505) までご連絡ください。	

【受賞作品あらすじ】

水戸部亜弓は五十六の独身女性であり、葬儀会社の社員である。F市の海に近い住宅地で育ち、父は十年前に他界、兄は行方不明中である。コロナ禍の時期から気の合わない母親の介護のために、葬儀ディレクター職からお客様窓口^{ひ おうぎむら}に転属になり三年が経過した。ふた月前に母親が亡くなったので本人は会館勤務に戻ることを考えていたが、別会社への出向を命じられる。そこは聞いたことのない種類の葬式まで請け負っている葬儀社だった。しかも新しい職場は檜扇村という過疎地の火葬場である。面接に出かけて行くと、社長の運転する霊柩車に乗せられ、さっそく火葬場まで連れて行かれる。車中で面接をするという強引な社長にうんざりしながらも出向は決定していた。働き始めると、自分が檜扇村になじんでF市の家に戻りたくなくなっていることに気づく。

令和6年度 第11回林芙美子文学賞受賞作品・受賞者プロフィール

賞	佳作	
ふりがな 作品名	もゆるうみ 燃ゆる海	
ふりがな ペンネーム	チヒロ・オオダテ	
ふりがな 本名	おおだて ちひろ 大建 千浩	
年齢	30歳 (令和7年1月31日現在)	
住所	北海道	
受賞のコメント	受賞したことは非常に嬉しいです、書いていて本当に楽しい小説ではありましたが、おそらく読み手にとっては馬そのものの魅力以外に特筆すべき点のない退屈な小説だったのではと思います。馬さまざまです。	
取材連絡先	取材ご希望の方は、文学館 (Tel 093-571-1505) までご連絡ください。	

【受賞作品あらすじ】

「旅行中です」

疎遠になっていた母親が会いに来るといので、柊子はでまかせのメールを返して嘘を本当にすべく空港へ向かった。

成り行きで辿り着いた異国でペルシャ湾沿いを散歩していると、美しい鹿毛のアラブ馬が白い犬と競争しているところに出くわす。その光景に心を奪われて翌日も浜辺を訪れる。

馬たちと、飼い主である `男、と過ごし、海や砂漠の風景が死なせてしまったかつての愛馬カレーニナ、落馬事故で失った右足、母親との関係、ダムに沈んだ故郷についての記憶を呼び覚ましていく。

日本の仕事もリモートで淡々と続けた。更新されない可能性のある契約、誰でもできるが自分の側にとっては失えない仕事、日毎に厳しくなっていく条件に迫られ、自分はいったいどこまで後ろへ下がるのか。

安息日の翌日、シムーンに騎乗して浜辺を駈ける柊子を猛然と追う一頭の馬がいた。それは死んだはずのカレーニナによく似た、青毛の馬だった……。

第11回 林芙美子文学賞 表彰式・記念トーク

第11回林芙美子文学賞の表彰式、最終選考委員による講評、朝比奈秋さん(第7回林芙美子文学賞受賞)による記念トークを行います。



朝比奈 秋 さん

【最終選考委員】



撮影・三原久明
井上 荒野 さん



撮影・三原久明
角田 光代 さん



川上未映子 さん

プログラム

- ◎ 受賞者表彰
- ◎ 最終選考委員による講評
登壇：井上荒野さん、角田光代さん、川上未映子さん
- ◎ 記念トーク 朝比奈秋さん「林芙美子文学賞を受賞してから」

入場
無料

あさひな あき：1981年京都府生まれ。消化器内科医として勤務しながら執筆し、2021年、「塩の道」で第7回林芙美子文学賞を受賞し文壇デビュー。2023年、「植物少女」で第36回三島由紀夫賞、「あなたの燃える左手で」で第51回泉鏡花文学賞と第45回野間文芸新人賞受賞。2024年、「サンショウウオの四十九日」で第171回芥川賞受賞。

日時

2025年2月22日(土)

14:00～16:00 (13:30開場)

会場

北九州市立男女共同参画センター・ムーブ
(北九州市小倉北区大手町11-4)

定員

500名 2月4日受付開始/定員に達し次第しめきり

お申込み
(電話 or WEB)

電話
北九州市立文学館(9:45～17:30)
093-571-1505

WEB申込み
(北九州市電子申請サービス)



主催：北九州市 協力：小説トリッパー（朝日新聞出版）

お問い合わせ：北九州市立文学館 TEL 093-571-1505 (月曜休館)



文学館HP

Kitakyushu
Action!

動かせ、未来。北九州市